

Ⅲ. 教育本部報告

1. 検定関連

【理論検定会】

参加人数：準指導員 55名 昨年比 15名減

養成理論は10月15日に1回目、10月22日に2回目が行われ、11月3日午前理論、午後に理論検定会が開かれた。

当日、正指・認定の締切があり、正指検定36名、認定4名の申し込みがあった。

(認定は追加募集を行い、最終的に5名の受検者となった)

理論検定は養成理論の講義から出題され、スキーの歴史・パラレルターンの指導の展開・野外活動論・安全対策・3本の矢の展開等、幅広く出題された。

【実技検定会】

最終的に受験者数51名、合格者数33名 合格率 64.7%

3月3日 晴れ

最高のバーンコンディションの中、パラレルターン大回り・総合滑降・滑走ブルークの展開・ブルークボーゲン・不整地小回りの5種目が行われた。

キャプテンコースが雪不足のため、コブ斜面の設定ができず、ピーナス上部での不整地小回りとなりました。

3月4日 晴れ

2日目はシュテムターン・横滑りの展開・基礎パラ小回り・制限滑降の4種目を行いました。2日間けが人もなく無事に検定会を終えることができました。

新種目の滑走ブルークの展開に理解不足が目立ちましたが、他の種目の理解・習熟ができていたように思われます。

【BC級検定会】

当初の予定通り20名ずつの実技検定を3種目行うことができた。

理論検定はスカイパーク1回のスペースを借り、例年より設問数を減らしたが難易度の高い出題をし、理論の理解度を求めた。受験者数はB級13名C級29名。

合格者数はBC級とも全員合格であった。

【プライズテスト】

車山Ⅱ行事で行われた。

2月18日事前講習、19日検定。受検者は合わせて9名で、ここ数年定着かしつつある。

2. 1強化関連

強化合宿A(1月14~15)

戸隠スキー場が雪不足のため、昨年同様車山スキー場に変更しました。

参加者19名でいい条件の元トレーニングを行うことができた。

強化合宿B(2月17~19)

戸隠スキー場で3日間行った。

天候が目まぐるしく変わる中、神奈川選手全体の弱点である力不足・スピード不足に対するトレーニングを行い、夜はビデオミーティングを開いた。

強化合宿 C (3月7~8)

技術選の会場が北海道ルスツに変わり、公式トレーニングを中心に合宿を行った。フリーで滑るコースが少ないため、滑り込み不足が気になった。

2. 2 県技術選大会

申込みは、一般 163 名、オープン参加 17 名、ジュニア 12 名。
最終的な出場者は一般 151 名、オープン 17 名、ジュニア 12 名でした。
今年から取り組んだジュニア技術選は参加者が 12 名と少なかったものの、レベルの高さに驚きました。
引率の父兄にも好評で、来期以降もさらに盛り上がる競技会になりそうです。
他にも安全対策として委員会から 1 名（上杉委員長）出てもらい、競技会場で安全管理と啓蒙をしてもらいました。

2. 3 全日本スキー技術選大会 (3月9日~12日)

今年から日程が予選 2 日、決勝 2 日に変更となった。
予選出場者 男子 300 名 女子 141 名 予選カット 男子 140 名 女子 80 名
神奈川県は勝木・中村英・荒井・中村浩の 4 名 女子は八木の 1 名が決勝進出となった。
決勝では得点が伸び悩み、思い通りの成績が出せなかった。

3. スノーボード関連

東京都スキー連盟主管の全日本スノーボード技術選手権大会に神奈川県から支援役員を派遣した。
大会では渡部現デモが準優勝と好成績を収めた。
準指検定では外国人ユーザー受け入れが 2 年目となり、韓国・中国・台湾・香港から受検者があり、過去最大の受験者数となった。

4. 研修会関連

研修会参加者が減少傾向にあり、ハイパー講習会、目的別研修等、参加してもらうための取り組みは継続しました。
専門員強化合宿も 2 年目となり、技術の研鑽・理論の習熟等、内容の濃い合宿ができました。

5. ニュースタイル委員会関連

北海道のバックカントリースキー講習会では札幌国際スキー場のゴンドラ降り場付近で弱層テストを行い、雪崩の起きるメカニズムを理解してもらった。
五竜 2 のバックカントリースキー講習会では大雲専門員を中心に、埋没訓練、雪洞作り、ビーコン・ゾンデ棒の取り扱い方など、広範囲に渡ってセルフレスキューの講習を行った。
来年からはフィールドへ出での講習会を企画中です。

6. 安全対策関連

競技会に役員として積極的に出てもらい、安全管理を徹底してもらいました。昨年までのパトロール競技会が全国パトロール総会に変わり、福島の猪苗代スキー場で行われ、SAJ 報告、各県連からの状況報告等、新たな取り組みが行われました。